

災害医療等のあり方に関する検討会 開催要綱

1. 目的

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に大きな被害をもたらした。この中で、災害派遣医療チーム（DMAT）は、発災後早期に被災地で活動を行い災害急性期の救急医療に適切に対応するとともに、災害拠点病院も被災地の診療拠点として大きな役割を果たした。その一方で、ライフラインの途絶や燃料不足による医薬品等の物資の供給不足などで、診療機能に影響が出た医療機関もあった。また、被災地が広範であった今回の震災では、震災後数ヶ月単位での、継続的な医療や介護等の支援体制の構築が必要となっている。今回、東日本大震災後の対応の中で明らかとなった問題に対して、災害医療体制の一層の充実を図る観点から、災害医療等のあり方について検討を行うため、本検討会を開催する。

2. 構成員

- (1) 各分野の有識者により構成する。
- (2) 構成員のうち1人を、座長として互選により選出する。
- (3) 座長は、必要に応じ、検討に必要な有識者等の参加を求めることができる。

3. 検討内容

- (1) 災害医療におけるDMAT及び災害拠点病院の役割について
- (2) 災害時における医療機関等の連携について
- (3) その他

4. 検討スケジュール

平成23年中を目途に検討結果をとりまとめる。

5. 運営等

- (1) 検討会は、原則として公開するとともに、議事録を作成し、公表する。
- (2) 検討会は、医政局長が主宰し、その庶務は医政局指導課において行う。

災害医療等のあり方に関する検討会 構成員

- 井伊久美子 日本看護協会常任理事
- 石井 正三 日本医師会常任理事
- 石原 哲 医療法人社団誠和会白鬚橋病院長
- 生出泉太郎 日本薬剤師会副会長
- 大友 康裕 東京医科歯科大学救急災害医学分野教授
- 小山 剛 社会福祉法人長岡福祉協会高齢者総合ケアセンターこぶし園総合施設長
- 酒井 和好 公立陶生病院長
- 佐藤 保 日本歯科医師会常務理事
- 佐藤 裕和 岩沼市健康福祉部長
- 高桑 大介 武蔵野赤十字病院事務部調度課長
- 内藤万砂文 長岡赤十字病院救命救急センター長
- 野原 勝 岩手県福祉保健部医療推進課総括課長
- 和田 裕一 国立病院機構仙台医療センター院長

(敬称略、五十音順)